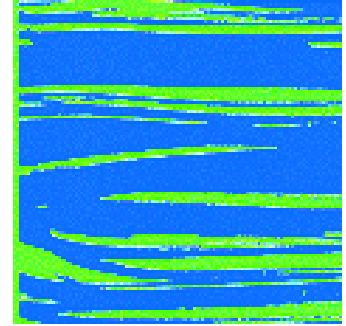


# 日本行動分析学会ニューズレター J-ABA ニュース



2007年 秋号 No. 48 (2007年12月4日 発行)

発行: 日本行動分析学会 理事長 藤 健一

603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学文学部心理学研究室内

FAX: 075-465-7882 (日本行動分析学会事務局と明記)

URL: <http://www.j-aba.jp/>

E-mail: [j-aba.office@j-aba.jp](mailto:j-aba.office@j-aba.jp)

---

2008年度「日本在住学生会員のABA/SQAB参加に対する助成事業」... 杉山尚子	
出版企画委員会より .....	伊藤正人
第4回学会実践賞を受賞して(3) .....	佐良直美
私とABA(1): ABA年次大会入門 .....	佐藤方哉
連載: 今, こんな研究しています(3) .....	佐伯大輔
編集後記 .....	ニューズレター編集部

---

## 2008年度「日本在住学生会員のABA/SQAB参加に対する助成事業」 杉山尚子

日本行動分析学会は、1983年の創立以来、行動分析学の発展に寄与してきましたが、創立20周年を機に、次世代を担う学生会員の国際的な情報交流活動を推進するために、ABAへの参加を助成する事業を開始しました。さらに今年度からは、事業を発展させ、SQABへの参加も助成対象に含めることに致しました。学生会員の奮っての応募を期待します。

### <応募資格>

1. 2008年5月に米国シカゴで開催されるABAまたはSQABに発表を申込んだ者。
2. 発表の種別は、口頭発表、ポスター発表、シンポジウムのスピーカー、パネルディスカッションのスピーカー、のいずれかであること。また、口頭発表、ポスター発表では、第一発表者であること。ビジネス・ミーティング、ABA Expo、同窓会(reunion)、ワークショップのみの参加者は応

募できない。

3. 2007年4月1日に、日本行動分析学会の学生会員として登録されている者で、ABA/SQAB参加に対して他の資金援助を受けていない者。ただし、SABAが募集する学生発表者の大会参加費免除への同時応募は認められる。
4. 申請時に日本国内に居住していること。
5. 過去にこの事業による助成を受けていない者。

### <提出書類>

1. 規定の応募用紙に必要事項を書き込んだもの。応募用紙は、ニューズレター、ホームページあるいは学会事務局からも入手できる。
2. ABA/SQABに提出した発表申込書(を印刷したもの)

3. 発表申込時に ABA/SQAB が返送したメールによる発表受付通知を印刷したもの。当選された方には、ABA/SQAB が発行する発表受理書 (acceptance letter) を後日提出していただきます。

< 助成額 >

応募者の中から、抽選により 2 名に対し、1 名につき 75,000 円を渡航費として支給する。ただし、受給後、ABA/SQAB に参加を取りやめた者は返金しなければならない。この場合は、再抽選を行なう。

< 応募締切 >

2007 年 12 月 31 日消印有効。1 月中旬開催予定の常任理事会において公開抽選を行い、当選

者に通知する。

< 提出先 >

〒 603-8577 京都市北区等持院北町 56-1  
立命館大学文学部心理学研究室気付  
日本行動分析学会事務局  
E-mail: j-aba.office@j-aba.jp  
http://www.j-aba.jp

---

[編集部より] 応募される方は <http://www.j-aba.jp/08applform.pdf> の応募用紙をお使いください。

---

## 出版企画委員会より

伊藤正人

出版企画委員会では、以下の 3 点の企画を現在検討中です。

(1) Web 出版

これは、大会発表論文集を PDF 化して、Web 上で利用できるようにしようとするものです。利用は有料で、学会の一定の収入源となることを目指しています。現在、PDF 化作業の経費や利用需要を検討しています。

(2) 紙媒体出版

研究倫理に関する啓蒙書を紙媒体による出版として検討しています。先の「行動分析学研究」の行動倫理特集号をふまえ、正の強化による研

究の促進という視点から、行動研究のための倫理の考え方を展開するものとして位置づけています。現在、細部の構成について検討しています。

(3) 日中同時出版

自閉症児者の教育と福祉について、中国の研究者と日本と中国での協同出版の可能性を協議しています。現在、詳細は、今秋開催予定のシンポジウムに合わせて来日する中国の研究者と打ち合わせることでなっています。

以上の企画について何かご意見があれば、伊藤までお申し出ください。

---

## 第 4 回学会実践賞を受賞して (3)

アニマルファンシィアーズクラブ 代表 佐良直美

「まあ汚い、猿みたい」、生まれたばかりのわが娘と初めて対面した母親の口から出た、信じられない言葉です。まだ言葉もわからない赤子

とはいえ、きっと傷ついたに違いありません。しかし、天はこの哀れなる子を見放しませんでした。この子は一人っ子だったため、「犬」を兄弟

や友だちとして育っていきました。本当に猿であるならば犬とは仲良くなれない。まさに、天からの「"人間"の証明」だったのです。(ちょっと古いですが)。

このような哀れな過去を持つ私が主宰するアニマルファンシィアーズクラブ(A.F.C.)が、去る8月4日、名誉ある第4回日本行動分析学会実践賞をいただくことができました。ご推薦下さいました諸先生方のご厚意に、心より感謝申し上げます。しかも、学会外部への授賞は初めてのことも伺っており、これを励みに、今後ますます飼い主教育に力を入れていく所存でございます。

アニマルファンシィアーズクラブは、1993年に創設した、飼い主の手による犬のしつけとトレーニングのための会員制のクラブです。それに先立つ1992年に、正の強化の原理を使ったドッグトレーニングの第一人者であったテリー・ライアン女史の知遇を得、日本に招聘し、トレーニングキャンプを開催、以後、それまで嫌悪刺激を使ってなされてきた、わが国の犬のしつけやトレーニングを、正の強化を使った方法に少しずつ変えてきました。また、この10数年間で、海外からのべ200名ほどの講師をお招きし、日進月歩する最新の情報と技術の提供に努めて参りました。創設時には5名だった会員も、現在では約100名の組織となり、また、この間、A.F.C.で育ち、現在では日本の最先端で活躍するインストラクター(犬を直接トレーニングするトレーナーは飼い主自身であり、その飼い主を教えるのがインストラクターです)も多数輩出することができました。クラブ創設と今日に至る経過を少しお話してみたいと思います。

さて、「猿児」が学校に行くようになってからは、帰り道に捨て犬や捨て猫を見ると、すぐに拾ってしまい、親に叱られても叱られても、飼ってしまうのが常でした。これは大人になってからも変わることはありませんでした。その過程で、飼い主の責任としての去勢避妊手術の必要性を認識し、機会あるごとに訴えていくように

もなりました。

昭和62年になって、祖父が創設した会社に入り、動物用の手術器具の輸入販売を始めたことがきっかけで、ペット用品にも目を向けるようになりました。このころ、ポリエステルでできたムートンのような手触りの英国製の手術用マットを見つけ、自信を持って販売できる質の高い商品と思い、ペットフェアに出展致しました。ところが、フェアに来場したペットショップの経営者たちは、私が輸入したマットを見て、「フリルがついていない」「ピンクやブルーじゃない」「真っ白でかわいくないから売れない」と酷評したのです。ペットショップの経営者たちは、色や飾りなどの見た目だけにとらわれ、犬にとって本当によいものを提供することに目を向けようとはしなかったのです。「犬にかかわる仕事をしてながら、犬にとって何がよいものかを理解できない人たちを相手にはできない。この状態を変えるには、エンドユーザー、つまり飼い主を教育し、このマットの良さを理解させ、飼い主の側からペットショップ経営者たちを変えていかねばなるまい。飼い主が自分の犬たちをもっと理解し、愛するようになれば、ペットケア用品の良し悪しを考えるようになるだろう。そのためには、訓練士に預けて犬をしつけてもらうのではなく、飼い主自身の手で犬をしつける方法を通して犬との絆作りを行う飼い主教育が必要だ」という結論に達したのです。

幸いに、米国ワシントン州立大学で、犬の行動学や正の強化による犬のトレーニングを指導されているテリー・ライアン女史とご縁ができ、1992年に日本に招聘することができました。

「ワンちゃんをつれていらっしやい。ごほうびのフードも忘れずにね」「ワンちゃんの名前を呼んで、ワンちゃんがあなたの目を見たら、楽しくほめながらフードを食べさせましょう」、テリー・ライアンはレッスンのはじめにこう言いました。幼少期からの経験で、名前を呼んだら、犬が自分の方を見るのが当たり前だと思っていた私は、いまさらながらこんな当然のことを言

う講師に、とんでもない眉唾者を招いてしまったと思ったものです。しかし、そう思ったのはその時だけで、名前への反応が、しつけやトレーニングにとってどれだけ深い意味を持つのかは、その後すぐにわかりました。

こうして、翌 1993 年に、正の強化を通したしつけとトレーニングを飼い主自身の手で行うことを教える A.F.C. を創設したのです。飼い主と犬との絆作りから始まり、いまでは、アジリティなどのドッグスポーツに没頭する会員たちも数多くいます。しかし、スポーツドッグの正しいトレーニング方法やケア、そして老後のケアなどの情報提供や施設作りなど、今後の課題はまだあります。また、いまだに犬や猫を捨てる無責任で無知な飼い主への教育、捨てら

れてしまった犬猫をいかにして幸福にしてやれるか、そのための人脈や施設、そして人材の強化など、やらなければならないことは山積してあります。

15 年前、卵巣がんを猫が早期に見つけてくれたお陰で、私は今も元気しております。犬猫たちが私を必要とする限り、私は彼らによって生かされているのだと感じております。これが、天から人間の証明を受けた私のライフワークです。

なお、A.F.C. の活動は、ウェブページでもご覧いただくことができます (<http://www.afc-dog.jp/>)。受賞にあたり、日本行動分析学会のますますのご発展を祈念すると共に、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 私と ABA (1): ABA 年次大会入門

帝京大学 佐藤方哉

最近、ABA の大会 (国際行動分析学会年次大会: Association for Behavior Analysis International, Annual convention) に参加する日本人がとて増えてきたようです。そこで、今回は、ABA 参加大ベテランのおひとりである帝京大学教授の佐藤方哉氏から、ABA の大会について、お話を伺いました。インタビューアーを務めて下さったのは、帝京大学の塚田静香さんです。勿論、実際にインタビューを行なって、佐藤先生にも原稿に目を通して戴いておりますが、記事にするにあたって、編者である望月が多少の“創作”を加えております。2 時間近くのインタビューの内容を 3 回に分けて掲載致します。

まずは、関心のあるセッションから。でも無理は禁物

塚田 (以下 T): 私が初めて参加した 2007 年の San Diego で開かれた大会のプログラムを見ると、5 日間の会期に 509 のセッションと約 100 件のワークショップが載っています。どのセッシ

ョンを聴いたらよいか迷ってしまいますが、佐藤先生のお勧めのセッションはありますか?

佐藤: まず関心のあるテーマのセッションを選んで出てみるのが良いでしょう。でも欲張り過ぎてはダメ。聴きたいセッション全部に出たら、疲れ切ってしまいます。たまには、ホテルの自分の部屋に戻って、昼寝をするような時間を作っておかないと、会期を乗り切れません。

望月 (以下 M): たしかに ABA のプログラムは、朝の 8 時から深夜まで殆ど空き時間なく、セッションがぎっしり詰まっています。殆どの発表は、題名と発表者の名前が掲載されているだけなのに、それでもプログラムは、400 ページ以上あって、他の分野の研究者に見せると驚かれます。ABA の大会は、毎年 5 月の末に開かれていて、会期は 5 日。初日は全てがワークショップで、他に合同開催の SQAB (Society for the Quantitative Analyses of Behavior) のセッシ

ンがあります。ABA大会の本番は、だいたい2日目から、といったところでしょうか。

それでは、休憩を取るためには、会場のホテルに宿泊するのが大切ですか？

会場のホテルを早めに予約する

佐藤: そうです。そのためにはABAのウェブ・サイトにホテルが発表されたら、すぐに予約することです。会場のホテルは、すぐに満員になってしまうことがあって、そうすると、別のホテルに泊まらなければならなくなってしまう。以前、1度だけ、会場のホテルまで、タクシーを使わないと行けないホテルに泊まったことがあって、そのときは大変でした。最近も、大抵、会場のホテルが満員になると、隣近所のホテルを用意してくれますが。

M: 隣と言っても、アメリカのホテルは巨大だし、街が広いから、結構離れていることもありますね。

チュートリアル・セッション

佐藤: チュートリアル (tutorial) というセッションも、いいでしょう。これは講義のようなもので、特定のテーマについて、適切な講演者を選んで解説をしてもらったセッションです。関心のあるテーマのチュートリアルを聴くのは、よい勉強になります。

T: チュートリアルの様子はDVDにもなっていますよね？

M: 講演の様子を、専門の技術者が撮影したものが、会場の“ABA Cooperative Bookstore”という本売場で、売られています。過去のものも手に入るの、英語のリスニングの練習や授業などで使うこともできます。

佐藤: “ABA Cooperative Bookstore”には、行動分析学関係の本が集めてあるし、インター

ネットの本屋でも手に入りにくい本があるので貴重です。本を沢山買っても良いように、ABAには余裕のあるスーツケースで行きましょう。

T: 海外発送もしてくれるし、大会が終わった後も7月ぐらいまで、インターネットから注文ができるようになって便利になりました。

写真付き (?) セッション

佐藤: それから、プログラムに講演者の顔写真が掲載されているセッションは、聴きに行った方がよいでしょう。

M: 写真付きのものは、ABAのプログラム委員会が企画した依頼講演とか、招待講演とか、要するに大物の講演だ、ということですね。

佐藤: それから、ディック・マロット (“Dick”, R. W. Malotte) のパワーポイント・ショーは見逃せません。

M: バックグラウンドミュージックまで入れて、大変に凝ったパワーポイントですよ。

佐藤: それを自動再生にして、講演者であるマロット自身は笑いながら立っているだけ...。その年の大会の会場や、街で撮った写真も入っていたりする。

M: 最近では、それを期待して見に来る人達が沢山いるみたいですね。

“Newcomer’s Session”

T: プログラムには“Newcomer’s Session”とありますが、やはり、初めて参加する人は、出てみた方がいいですか？

佐藤: これは ABA の歴史などについて紹介するセッションで、毎年やっています。今年のサンディエゴ大会ではジャック・マイケル (Jack Michael) が話しています。彼は殆ど毎年このセッションで話をしています。初めての人は参加すると面白いでしょう。ただ、ここ数年、“International Development Brunch” と時間が重なるようになってしまいました。

M: “Newcomer’s Session” は、ABA に何度も行っているベテラン参加者でも楽しみにしている人がいるようですね。私が聴きに行った時、ジャック・マイケルが、「初参加ではない人も沢山いるみたいだけど...」と言って話し始めました。ランチについて、教えて下さい。ただし、以前は、朝食会だったようですが...

#### “International Development Brunch”

佐藤: そうです。主に北米以外からの参加者が集まり、親交を深める目的の会ですが、以前は初日の朝 8 時頃に設定されていて、前の晩に現地に着したときだと、起きるのも辛いし、朝食会と言っても食べ物が殆どなくて、結局、朝食を食べ損ねることになったりして、大変でしたが、ここ数年、ランチと名前を変えて、開会も 10 時からになりました。以前は、参加者全員が 1 人ずつ簡単な自己紹介をしていましたが、最近参加者が余りに多くなって、自己紹介はなくなってしまいました。

M: 自己紹介させられるのを恐れて、敬遠している日本人がいると聴きましたが、もう、その心配はなくなったわけですね...

佐藤: 全般的に若い参加者が多いし、思いがけない国から大勢の参加者が来ていることに気付かされたり、色々な国に、それぞれの行動分析学会が出来ていることを知ったり、有意義な機会だと思います。最近ではデニッシュパンやドーナツ、コーヒー、ジュースなど、食べ物の内容

も充実して、量も十分に用意されるようになりました。

M: 今年は、準備のために出欠を事前に教えて欲しい、というメールが来ましたね。参加者に喜んでもらえるよう、気を遣っているのでしょうか。勿論、特別な参加費がかかることはありません。

#### “Opening Event”

佐藤: 大抵はランチに続いて “Opening Event” があります。これは必ず出席すべきでしょう。行動分析学に大きな貢献をした人に、学会が賞を与え、その受賞記念講演があります。もうひとつ、必ず出席すべきセッションは、会長講演 (“Presidential Address”) です。その年の ABA の会長の講演があります。

M: 会長講演と別に、“Presidential Scholar’s Address” というものがありますが、これは、どんなセッションなのですか?

佐藤: 前の年に会長を務めた人が選んだ演者に講演をしてもらうのが “Presidential Scholar’s Address” です。

M: 前会長なんですね? 現会長ではなくて...

佐藤: ABA の会長の任期は 1 年ですが、3 年間に互って ABA の運営に携わります。最初の年は “President elect”、つまり会長当選者として運営に関わり、次の年に本当の会長 (“President”) として仕事をし、3 年目は “Post President” として、同時に SABA の会長として、ABA を支える、という仕組みになっています。

M: 面白い仕組みですね。会長職にも《研修期間》のようなものがあり、同時に、次の会長への引き継ぎの機会も用意されている。1 年と

言う短い任期でも、連続性のある安定した運営ができるように工夫されているわけですね。

T: それで、“Post President”は、どんな人を講演者に選ぶのですか？

佐藤: 勿論、行動分析家が選ばれることもありますが、むしろ、行動分析学以外の専門家、心理学者でもない講演者が喜ばれるようです。私が会長だったときは、慶應義塾大学名誉教授の西岡秀雄先生にお願いしました。

M: あの、トレイットペーパー収集家の？

佐藤: そうです。西岡先生の御専門は人文地理学で、大変ユニークな研究をなさっていらっしゃいました。トイレ研究もそのひとつで、世界中の様々な国、色々な民族のトイレを研究し、トレイットペーパーや、それに相当する物を集めていらっしゃいました。

M: 残念ながら私は授業を受けたことはないのですが、慶應にいらした頃、西岡さんの講義は大変な人気でした。口の悪い学生は《西岡の人糞地理学》と呼んでいたらしいのですが、決して悪口ではなくて、親愛・敬愛の現れだったと思います。

佐藤: ABAでもトイレの話をして下さると思っていたのですが、講演は気候温暖化に関するものでした。当時、既に地球の気温が上昇していることは疑いのない事実だったのですが、その原因が人間の工業活動によるものなのか、氷河期・間氷期という、大きな周期の自然変化によるものなのか、専門家の見解が分かれていて、西岡先生は、自然変化の可能性を重視され、十分な根拠無い段階で、工業活動だけを唯一の原因と見ることの危うさを指摘されました。

M: 最近では、エリザベス・ロフトス (Elizabeth F. Loftus) が講演して、大変な人気だったとか？ 記憶の変容を問題にした《偽りの記憶》や《目撃者証言》などで有名な認知心理学者ですよ？

佐藤: 広い会場に入り切れず、廊下の外から聴いている人もいたぐらいです。

M: 行動分析学とは対照的な立場と言うか、かつては犬猿の仲だった認知心理学者を敢えて演者に選び、その講演が大評判、といううは、いかにも行動分析学の国際大会、という気がします。

T: ABAの大会では、夜遅くから始まる、パーティーのようなセッションもありますね。

佐藤: “Behavioral Bash”、“ABA EXPO”、“ABA Social”の3つです。これは、絶対に参加してみるべきです。どれもエンターテイメント的な催しで、しかも深夜まで続くので、最初から最後まで付き合うのは大変ですが、少しは覗いてみるべきでしょう。日本から参加して、こういうセッションに全く出ない人がいますが、それでは、何のためにABAに来ているのか分からないと、私は思います。こういう催しに積極的に参加して、日本人同士ばかりではなく、海外の色々な人と交流する機会を作ることは、とても大切なことです。今、私には10人以上の親しい海外の行動分析家がありますが、その殆どはABAで知り合った人達です。

#### “ABA EXPO”

M: まず、“ABA EXPO”というのは、グループ単位のポスター発表のようなものですね？

佐藤: 行動分析学に関係するグループや、アメリカ各地にある行動分析の学会、大学、世界各国の行動分析学会などが、自分達の活動をアピールする場です。企業なども参加できる筈です。日

本からは毎年、日本行動分析学会 (J-ABA) がポスターを展示しています。

T: J-ABA のコーナーでは来てくれた人達に、杉山先生が持って来て下さった日本酒を振る舞ったり、日本のお菓子が用意されていたり、学会のポスター発表とは、全然違う雰囲気でした。

M: そう、ハワイ ABA の人が、キャンディーを差入れてくれて、お返しに j-ABA からは《生八ツ橋》を差し上げたりして...

佐藤: 日本に来たことがある、アメリカの大物行動分析学者達も顔を見せてくれますから、有名人と知合いになるにも、良い機会です。

そうそう、ABA に行ったら、憧れの有名な大物行動分析家からサインを貰ったり、一緒に写真を撮らせて貰いたい、という気持は分かりますが、サインを頼むときは、色紙とかではなくて、その人の書いた本に署名して貰うのが礼儀だと思います。相手は芸能人ではないのですから。本は会場の “ABA Cooperative Bookstore” で買うことも出来ますから、それにサインして貰いましょう。

T: そう言えば “ABA Cooperative Bookstore” では、著者サイン会もありますね。

M: たしかに、毎年 j-ABA のコーナーに来てくれる、常連大物アメリカ人もいますね。他にも、留学中の人達と会える、いわば同窓会的機能もあるし、ずっとアメリカで行動分析学を学

んでいる日本人と知り合ったり、日米情報交換の場でもあります。

ところで、残りの 2 つ、“Behavioral Bash” と “ABA Social” というのは、何回か参加しましたが、未だに性格を掴み切れていないのですが...

佐藤: どちらも、エンターテイメント、謂わば余興ですよ。ずっと以前は、“Banquette” (バンケット) という夕食会があって、そこで、スキナーとケラー (Fred Keller) が掛け合い漫才のような余興を披露していたんです。その頃もバンケットとは別に、エンターテイメントだけの催しがありました。名前は今とは違っていたと思います。

M: “Behavioral Bash” の前身ですね。数年前までは、“Follies” という名前でした。学生達のコメディがあったり、寸劇のようなものがあったり、以前、カタニア (A. Charles Catania) が脚本を書いたコメディが上演されましたね。

盛り上がっている雰囲気は楽しめるのですが、言葉の壁と、アメリカの流行などを知らないこともあって、周りの笑いについていけないのが辛いです。“ABA Social” というのは、やや大人向けなんでしょうか？ 後半ダンスパーティーになったりするようです。

---

[編者]: 最近は、行動分析学の国際会議にも種類が増えてきました。次回は、主な国際会議の違いなどについてお話戴きます。

---

連載: いま, こんな研究しています (3)  
大阪市立大学 佐伯大輔



私はこれまで、ヒトや動物を対象に、選択行動に関する研究に携わってきました。現在は、その中でも特に「報酬の価値割引」(discounting)という観点から研究を行っています。今日は、私の研究も含めて、報酬の価値割引研究についての紹介をしたいと思います。

報酬の価値割引とは、様々な要因によって報酬の主観的価値が低下する現象のことをいいます。例えば、「今もらえる10万円」は「1年後にももらえる10万円」よりも好まれますが、これは「1年」という遅延時間によって10万円の主観的価値が低下したためと考えられます。これを遅延割引といいます。遅延以外の割引要因として、報酬が得られる確率、報酬を共有する人数、報酬を得るために要するコストなどが知られています。私が、報酬の価値割引を研究テーマとして選んだ理由の1つは、この現象が、心理学だけではなく経済学や生物学でも盛んに研究されており、これらの研究分野との交流を通して、選択行動を研究するための様々な考え方に触れることができると思ったからです。ここでは、最も研究が盛んな遅延割引に関する話をします。

価値割引は、通常、割引要因を含んだ報酬との間で主観的に等価な、割引要因を含まない報酬量を求めることにより測定されます。遅延割引の場合、「1年後にももらえる10万円」との間で主観的に等価な、今もらえる金額(等価点)を求めます。この等価点測定を他の遅延条件についても行うと、遅延時間の経過に伴って10万円の主観的価値(等価点)がどのように低下するかを明らかにできます。これらの等価点データに割引関数を適用することにより、割引率(価値割引の程度)が推定されます。割引率は人によって異なる値を取ります。遅延割引の場合、割引率は、衝動性の程度として解釈されています。図1(佐伯・伊藤, 1998)の黒丸は、仮定の10万円の遅延割引の様子を表しています。

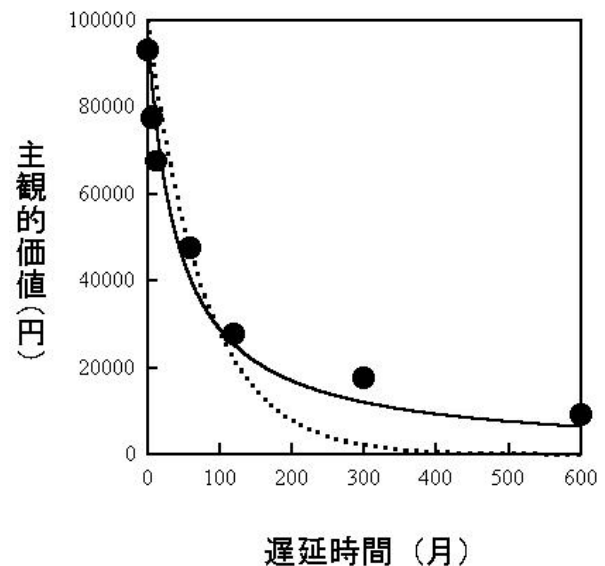


図1. 遅延時間の関数としての主観的価値

価値割引研究の目的には、大きく分けると、(1) 価値割引をうまく記述する数理モデルの構築と(2) 価値割引と関係する要因の同定があります。このうちの(1)について、遅延割引研究が最初になされた経済学では、指数関数が使用されてきました。この関数は、遅延時間の経過に伴って、報酬の主観的価値が常に一定の割合で低下することを示しており、合理的意思決定者の遅延割引を表すものとされてきました。ところが、実験的行動分析におけるハトやヒトを対象とした研究において、指数関数よりも双曲線関数の方が、実際の遅延割引データにうまく当てはまることが示されました。図1の実線と点線は、それぞれ最も当てはまりの良い双曲線関数と指数関数を表しています。現在、この双曲線関数が、経済学の時間選好研究や、生物学の採餌行動研究において注目されていることは、興味深い事実です。この数理モデルの構築という点で私が主に行っているのは、従来用いられてきた測定法以外の価値割引測定法を用いた場合でも、双曲線関数が妥当か否かを明らかにすることです。ここでは、細かい話はできませんが、これまでの価値割引研究では、少数の方法でしか価値割引の測定がなされてきませんでしたし

た。そのため、双曲線関数は、他の方法を用いた場合には妥当ではない可能性があります。一般性の高い数理モデルを構築するには、様々な方法を用いて検討する必要があります。

次に、(2) の価値割引と関係する要因として、年齢、収入水準、喫煙行動、薬物摂取行動など、様々なものが報告されています。従来、年齢の増加とともにセルフコントロールが発達すると言われていました。遅延割引の程度が衝動性の程度を表すのであれば、年齢の増加に伴って、遅延割引の程度は緩やかになると考えられます。4 歳児と 6 歳児を対象に遅延割引を測定し比較した、空間・伊藤・佐伯 (2007) の研究では、6 歳児の方が遅延割引の程度が緩やかであるという結果が得られ、遅延割引がセルフコントロールの発達過程をうまく捉えられることが明らかになりました。

ここで述べた研究は基礎研究でしたが、喫

煙者や薬物依存者とそうでない人の中で割引率が異なることが明らかにされており、今後は、衝動性のアセスメントや価値割引の観点から見た介入プログラムの提案などの応用研究がなされることを期待します。

空間美智子・伊藤正人・佐伯大輔 (2007). 遅延による価値割引の枠組みを用いた就学前児の自己制御に関する実験的検討 行動分析学研究, 20, 101-108.

Rachlin, H., Raineri, A., & Cross, D. (1991). Subjective probability and delay. *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, 55, 233-244.

佐伯大輔・伊藤正人 (1998). ヒトにおける確率・遅延・共有による価値の割り引き：質問紙による検討 日本心理学会第 62 回大会発表論文集, 780.

---

## 編集後記

### ニューズレター編集部

今回の 48 号からニューズレターの電子配布がスタートしました。冊子体の送付継続を希望された方は 24 名でした。この数字を、どのように受け止めてよいのか悩んでおりますが、取り敢えず大幅なコスト削減を喜びたいと思います。今号に掲載した記事のうち、佐良直美氏の記

と「出版企画委員会より」は、前号に掲載できなかったもので、Web 版のみで刊行した 47 号補遺には掲載済のものです。前号でお約束致しました海外行動分析学事情の連載は、次号 48 号からのスタートにさせて戴きました。

ニュースレター編集部よりお願い

- ニュースレターには個人情報に記載されている場合があります。御覧になった後、処分の際には十分に御留意下さいますようお願い致します。
- さまざまな内容の記事を随時募集しています。詳しくは望月までメールでお問い合わせ下さい。尚、記事の著作権は、日本行動分析学会に帰属し、日本行動分析

学会ウェブサイトで公開いたします。

192-0395 八王子市 大塚 359  
帝京大学文学部心理学科内  
日本行動分析学会ニュースレター  
編集部 望月 要  
E-mail: moc@main.teikyo-u.ac.jp